

動物の診察室から

○ 52 ○

4月のある日曜の午後、私は上越市で病院から電話を受け取りました。急に立てなくなつた猫ちゃんがいるとの連絡だったので、入院させるよう指示し早めに新潟へ戻ることになりました。帰り道、再度、病院から、数日前に来院したタックスフントが後足が立たなくなつたと連絡がありました。

そのタックスは、腰の痛みで来院し、腰部椎間板ヘルニアと診断していました。来院時は歩

## 回復の可能性10%以下

行可能でしたが、急にヘルニアが悪化して立てなくなつたと思われま

す。猫ちゃんの名は「ビベちゃん」。3歳の男の子です。すぐに、ビベちゃんのお姉さんに連絡し、骨折の整復手術はした方がよいが、神経の回復は難しく、歩けるようにな

る確率は10%以下であることを説明しました。お姉さんが手術を希望されたので、すぐに治療を開始しました。私の病

院では、椎間板ヘルニアや、脊髄損傷の場合には、PEG（ポリエチレングリコール）の点滴をします。昨秋に米国の脳外科医のセミナーがあり、P

EGは神経細胞を保護・修復する作用があるの

## 重い腰椎骨折も歩けた

ビベちゃん  
が歩けるようになった



歩けるようになったビベちゃん

入りました。背骨を削り数本のピンを打ち込み、骨セメントで固める方法で無事終ることができました。

